

シリーズ ■ 中学校武道

授業の充実に向けて 111

つまずきをどう克服したか ④ (剣道本来の魅力を伝える)

上越市立浦川原中学校

上越市浦川原区は、平成17年の市町村合併により、旧・浦川原村から上越市の一部となった地区である。曹洞宗の寺院である顕聖寺や霧ヶ岳温泉などがあり、豊かな自然と山々に囲まれて人々は生活している。浦川原区では社会体育が盛んで、剣道にも力を入れてきた。

そんな浦川原区で唯一の中学校が浦川原中学校である。浦川原区顕聖寺の高台にあり、昨年で開校70周年をむかえた。かつては最大で600名もの生徒が在籍していたが、現在は、各学年1クラスのみであり、1クラス約30名弱、全校生徒81名が学校生活をおくっている。

浦川原中学校では、授業協力者とともに、全学年で剣道本来の魅力を伝えようと剣道授業を試みている。今回は、その浦川原中学校での武道授業を、昨年10月26日の取材をもとに紹介したい。

1

授業協力者派遣の経緯

小熊敬子教諭は、平成27年度に上越市立浦川原中学校に赴任してきた。当時は、一抹の不安を抱えながら保健体育科の剣道授業を行っていた。地域で剣道が盛んであったこともあって、浦川原中学校では全学年で剣道授業を継続して行っていたが、自身の専門はソフトテニスであり、剣道の指導経験がなかったのである。

赴任早々の平成27年度は全日本剣道連盟発刊の『剣道授業の展開』を参考に手探りで剣道授業を行った。「これが正しいやり方なのだろうか……」疑問を感じながらもなんとか10数時間の授業をやり終えたが、剣道を知らない自分が地域に根ざしているものを教えることの不安感は消えなかった。

一方、話はさらに2年さかのぼる。平成25年、新潟県剣道連盟では全日本剣道連盟からの要請を受けて、「文部科学省委託事業・授業協力者養成講習会」を開始した。その講習会上越市剣道連盟

の西山知太郎教士七段は参加した。講習会では全日本剣道連盟普及委員会学校教育部が提示する授業方法、保健体育科教諭との連携のあり方などが説明された。前述の『剣道授業の展開』で例示されている「ボール打ち」などの授業導入部分での実践例は、道場にはない指導法であった。

そして平成27年、新潟県剣道連盟から西山氏へ「授業に関わることはありますか」との問い合わせがあった。西山氏は「部活では関わりがあるが授業では特にありません」と回答した。県内での剣道実施校を見ると、新潟市ではわずかに2校であるが、上越市では9校もの中学校が剣道授業を実施していた。上越市で実績を作りたいと考えた県剣連は、県教育委員会経由で上越市教育委員会に働きかけて対象校を相談する。同市教育委員会より、浦川原中学校で実施してはどうかとの返答があった。改めて県剣連は西山氏に対し、授業協力者として浦川原中学校での剣道指導を打診した。「役場の職員として奉職していること

2

剣道の本格的な所作を授業で求める

もあり、地元にはやはり愛着がある。そしてなにより剣道の火を消したくない。そう思った西山氏は授業協力者の話を快諾した。こうして、上越市の「スポーツ活動サポート事業」として、西山知太郎教士七段の授業協力者派遣が決まった。こうして浦川原中学校では、平成28年度より、小熊敬子教諭と西山知太郎氏による剣道授業が開始されたのである。

西山氏が授業を行うにあたって重要と考えたのは剣道らしい所作である。「今の時代は家庭で礼をすることはまずないので、生徒たちにはサムライ文化での義を学んでほしい。それは必ず日常生活で役に立つ」そう思った西山氏は剣道授業では体育館は道場となることを生徒に説明し、入退場での礼の指導を丁寧に行った。

西山氏は前述の講習会も参考に、小熊教諭とともに指導案を

作成した。しかし、授業はどうしても時間的な制約がある。その中で少しでも剣道の真髄に触れさせたいと考えて、「ボール打ち」など生徒たちへの興味付けとなる指導法はあえて盛り込まなかった。小熊教諭もそれに賛同し、指導計画は作成された。

平成28年度から、2人での授業は順風満帆に船出を切り、浦川原中学校では、文部科学省支援授業―武道等指導充実・資質向上支援事業の指定を受けて剣道の公開授業を行うこととなった。ところが、その公開授業で予期せぬ指摘を受けることになったのである。

3

公開授業での指摘

剣道関係者、学校関係者を招いて平成28年11月のある日、公開授業は実施された。公開授業には全日本剣道連盟普及委員会学校教育部委員長の小鬼史訓氏も視察したという。

授業終了後に一部の教員から

「生徒の興味付けのため、もっとゲーム性のある剣道を取り入れてもいいのではないか」などの意見があがったという。西山氏は「確かにゲーム性のある指導法を加えれば剣道を苦手とする生徒への興味付けとなるかもしれない。しかし、本物の剣道を体験してもらうことに意味がある」と考えた。小熊教諭も「剣道が盛んな地区となる浦川原に住んでいる生徒たちには、その心と本物の剣道を授業で習ってもらいたい」とやはり西山氏に賛同した。その後も2人は、剣道の所作、本格的な剣道に重点をおく当初のスタイルで授業をやり通した。



浦川原中学校

4 剣道の真髄に触れる授業への第一歩

平成29年度の授業は、西山氏にとって2年目の授業である。1年生の授業で2人の授業スタイルに対する生徒の反応が現れた出来事が起こった。

「本物の剣道に触れさせる」という授業であるため、防具の着装は欠かせない。したがって授業の3・4回目からはこの防具着装に時間を割かなくてはならない。授業開始後、倉庫室から授業場所まで生徒に防具を運ばせる。その後全員で着装を行う。一応、剣道部にリトルティーチャーとして着装の補助をお願いしているが、それでも30名一斉の着装は時間がかかってしまう。ただでさえ時間は少ない。50分授業の中での実技指導にもっと時間を割けたらと思っていた西山氏にとってこの防具着装は大きな課題となっていた。

そんな折、1年生の男子生徒が誰からともなく、授業前に防具の

った。

授業では、大きな流れとして、はじめに剣道の概要を掴むためのオリエンテーションを行い、礼法、所作、足さばき、素振りを実施する。そして、防具を着装してから基本動作、基本稽古法、一本打の技、切り返しを行う。最後に、授業のまとめとして全学年とも判定試合を行っている。

毎時の授業では、導入部を小熊教諭が担当し、その後の指導は西



第3学年授業① (防具の着装は剣道部員もサポートする)

持ち運びを済ませるようになった。おそらく数名から始まったであろう授業前の防具搬出は、自然と1年生の生徒全員に広がったという。西山氏がなぜ行ったのかと尋ねたところ「こうすれば、もっと早く授業に入れると思います」と答えたという。西山氏は「気配りが出来ることは大切だし、それを出来た君たちは素晴らしい」と生徒を褒めたそう。授業前の防具搬出は他の学年にも広がった



第1学年授業① (小熊氏による授業の説明)

西山氏が行っている。「前述の講習会では『授業を行うのはあくまで教員』との説明があったが、それではなかなか中身に踏み込めないのも事実」と西山氏は語る。全体の指導計画はあるが、都度の生徒の習熟度をみながらその時間の時間で指導法を計画するという。

しかし、仕事があるため、全ての授業の指導は出来ず、小熊教諭一人で授業を行う場合もあるという。また、評価は、小熊教諭が防



第3学年授業② (西山氏による示範)

という。記者は取材時にその件について生徒に尋ねてみたが、やはり西山氏からのお話と同じ内容の返答であった。剣道部員からというわけでもなく、ごく自然と男子生徒から広がった行為であるらしい。厳しいしつけ・指導を行わなくとも、剣道授業を通じて対人関係で大切な教養を学び、それを日常生活で活かす。小熊教諭と西山氏が目指している授業成果の一步と言えるのではないだろうか。



第1学年授業② (向かい合っの素振り)

具の着装、判定試合、日々の見取り、実技テストなどから総合的に判断している。

取材をした3年生の授業は、全12回の11回目であった。生徒は体操着の上に防具をつけ、前述の通り剣道部員が着装を補佐する。黙想後に授業は開始された。はじめに小熊教諭が「今日は、昨日まで行った『連続技』と『出ばなの技』の精度を高めて『判定試合』を行います。さあ気合いを入れましょ



第3学年授業③ (判定試合)

5 授業の実践紹介

ここで浦川原中学校での剣道授業の内容を見てみたい。

平成29年度は剣道授業として全学年で10数時間程度の授業を10月に実施した。28年度は11月に行っていたが、素足で行う剣道授業では寒さが堪えるため、10月に変更とな



第1学年授業③ (竹刀の操作法について説明する西山氏)

う」と授業で行う技を説明する。

次に生徒は2列になって、向かいあった生徒同士で上下打ち、左右打ち、正面打ち、早素振りなどの素振りをそれぞれ10回繰り返した。西山氏からは「躑躅(たづな)のよう」のように使われている。また、体育館側面にはホワイトボードが置かれて、本日用の技名と動きのポイントが記載されており、いつでも生徒が確認できるようにしている。取材時の動きのポイントは「一挙動」「手の内で打つ」と書かれていた。そのホワイトボードの周りには、「気剣体」「左座右起」「一眼二足三胆四力」など、剣道で重要になる所作や考え方が掲示されている。

連続技として「小手一面」「小手一胴」、出ばなの技として「出小手」「出ばな面」が指導されていた。指導では、西山氏と剣道部員が見本を示した後、向かい合った生徒同士での個別練習を行う。3年生の剣道部員は、全員が西山氏の道場で稽古を行っているということだ。

柔道系DVD **2月下旬発売予定!**

幻の柔道技の研究と実践 空気投げの極意

蘇る伝説技

半ば伝説となった三船久蔵の柔道技法「空気投げ(隅落)」。日本で唯一の空気投げ研究者・田島大義氏がこの詳細なメカニズムを丁寧に解説。本邦初公開の貴重な映像資料です!

空気投げ…「手も足も触れずに相手を倒したい」と思った三船久蔵の理想から生まれた「足腰を相手に触れず、体捌きによって倒す」技、別名隅落。

浮落、渦落、隅落、浪落、前後左右斜めの八方向「押さば回れ、引かば斜めに」

Contents (予定)

- ・空気投げの手順(『柔道の真髄…道と術』(三船久蔵著)より)
- ・真ん前への空気投げ…浮落(前)
- ・東京タワーのポーズ…姿勢をキープする
- ・止まっている相手への空気投げ(隅落)
- ・相手の動きをもらって掛ける(浮落)
- ・浮落の背負落への展開
- ・組み合ってから相手に踏みつけて掛ける、他

指導/監修◎田島大義 (空気投げ研究者) 60分(予定) 予価:◎本体5,000円+税

伝説とも言われる空気投げは本当に再現可能? →答えはYes! 指導/監修◎田島大義 (空気投げ研究者) 60分(予定) 予価:◎本体5,000円+税

忍者BOOK **好評発売中!**

初見良昭 武神館の秘法 忍術教伝

変幻自在! 神速雷撃!! 本場に通用する武術がここにある! **武器術編**

修羅場をくぐり抜け、生き抜いてきた忍者武術のすべてを、豊富な写真とともに詳しく解説!! ■『月刊秘伝』編集部編 ■A5判 ■208頁 ■本体1,600円+税

忍術教伝(体術編)(仮) 2月上旬発売予定!

実戦的な徒手技術と十手、鉄扇などの携帯武器術の奥義を教伝! 豊富な写真とともに詳しく解説!! ■A5判 ■200頁(予定) ■予価:本体1,600円+税

弓道BOOK **2月上旬発売予定!**

弓道家が見出した、究極的な武術身法!

弓道に学ぶ! 体の「中」の使い方

弓道が求める身法は、究極的な「体の「中」の使い方」。独自の研鑽を行ってきた著者が辿り着いた結論は「居着いているようで居着いていない身体」「無駄な筋力を使わない」「体内アンテナを養う」の3つ。本書はこの3つをメイン・テーマに、弓道と他武術がクロスオーバーするさまざまな理、トレーニングを紹介。

■守屋達一郎(啓進会)著 ■A5判 ■200頁(予定) ■予価:本体1,600円+税

武道・柔道DVD **好評発売中!**

格闘家のポテンシャルを素早く高める施術 格闘家ボディケア入門

長年のボクシングトレーナーに基づく実績と施術家としての視点。

格闘家、トレーナー必見! <天城流湯治法>をエッセンスを格闘技に応用した驚異の施術! テクニックとケアの質を高め、一つ上の身体を作り上げる! 身体の滞りをいち早く抜き出し、指圧をすることで驚くほどの確にアプローチ!

指導/監修:塚本耕司(塚本道場代表) ■収録時間55分 ■本体5,000円+税

合気道系DVD **好評発売中!**

打・投・極が有機的に統合された奇跡の技法体系 試合う合気

武田流中村派 合気道 体術編

「試合う」事で磨かれた、「戦うため」の合気!

<秘之打>と呼ばれる手刀打を攻撃技とし、そこから「投げ」「極め」への展開を可能にする総合乱取試合を始めとした練り込まれた試合体系。形稽古だけでは決して学ぶ事のできない戦いの機微を修練し続ける古武道を試合化させた嚆矢、中村派を学ぶ! ■指導/監修:朝飛大(朝飛道場館長) ■収録時間77分 ■本体5,000円+税

DVD **DVD全3巻**

嘉納治五郎の高弟たち

昭和20~30年代、GHQの一員として来日し、講道館で柔道を学び、公務により昭和天皇の護衛も務めたアメリカ人、ハル・シャープ氏が残した貴重な映像・写真記録を日本初公開。今や伝説とも言える「嘉納治五郎の直弟子達」の演武、稽古・指導の様子などに、シャープ氏の解説を加えて紹介!

講道館を支えた伝説の柔道家 24人の素顔 ①「講道館・達人の柔道」

紹介されている師範(抜粋・段位は当時):嘉納治五郎・三船久蔵(十段)・佐村嘉一郎(十段)・永岡秀一(十段)・福田敬子(五段)・他多数 ■収録時間105分 ■本体5,000円+税

攻防理合の極み「形」を達人に学ぶ ②「講道館・柔道形」

「投の形」「固の形」「柔の形」「五の形」「古式の形(体・夢中・水車・他)」他。嘉納が描いた理想の形、さらにその源流となった柔術の形を掘り起こす。 ■収録時間71分 ■本体5,000円+税

50年代における技巧者たちの得意技 ③「講道館・乱取り技法」

今や伝説となった達人達の得意技を貴重映像で公開。オランダのヘーシクを5度投げた大沢慶巳の袖釣り込み腰など数々の技が明らかになる。 ■収録時間63分 ■本体5,000円+税

日本刀BOOK **好評発売中!**

日本刀が斬れる理由、美しい理由

刀匠であり武道家でもある者だけが知る秘密、教えます!

一線級の刀匠が数々の秘伝を明かしながらつづる、誰も知らなかった、日本刀の本当の魅力。隕石に含まれる鉄で作った隕鉄刀。持つと、不思議な気流を感じます。こんな不思議なものがこの世にある不思議! 世界最高峰の斬撃力! 世界最高峰の美しさ! 日本刀には、知られざる「理由」がある。

■松葉國正 著 ■四六判 ■180頁 ■本体1,400円+税

MAGAZINE **2月号** **12月14日発売!**

WEB秘伝 月刊秘伝

武術・武術の秘伝に迫る! 糸東流で読み解く! 沖繩空手の神髄 ナイフと「形」

新資料! 摩文仁賢和が語る糸洲安恒の形の改変! / 他

●戦前の女子護身術にみる「初期合気術」を探る
●居かないための「体内アンテナ」養成法
●女子武道と大和流護身術(前編)
●東南アジア「蹴技武術」紀行 by 大嶋良介
●フィリピン・フット・ファイティング「シカラン」

その他、特別企画&豪華連載多数!

価格990円(本体917円+税)

●弓道家・守屋達一郎(啓進会)
●松田隆智「門」浅山一傳流体術
●師の夢を受け継ぐ練拳無限の魂

Aikido, Karate, Judo, Jujutsu, Kendo, Kenjutsu, traditional Budo and Bujutsu, Ninjutsu ...

武道・武術・身体 海外向けDVD販売サイト Japanese-origin Budo and Bujutsu DVD site

BUDOJAPAN.COM

produced by BAB JAPAN

A variety of Budo and Bujutsu DVDs performed by the Japanese greatest masters!! Go to our site for related articles.

全国どこでも送料無料で配送いたします!! スマートフォンからも注文可能です!

購入方法 ○お手軽なお電話で(平日10:00-18:00) ○FAX:03-3469-0162 (24時間) 秘伝ウェブショップ(検索) ○HPから http://babjapan.tp.shopserve.jp/

TEL: 03-3469-0135

クレジットカード、銀行振込、郵便振替、現金書留、コンビニ決済もご利用いただけます(先払い)。代引の場合のみ、送料(書籍・雑誌は1冊360円、2冊以上515円、DVD1枚515円、2枚以上720円。書籍・雑誌+DVDは一律720円。)、手数料(260円)が別途かかります。また、弊社の商品は全て全国の書店でもお取り寄せいただけます。

(株)BABジャパン 〒151-0073 東京都渋谷区笹塚1-30-11 4・5F

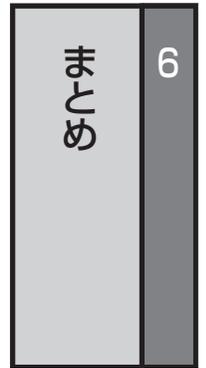
連続技の指導では、西山氏は生徒に「残心」の意味を詳しく説明し、打突後も気を緩めず必ず残心を示すように求めている。小熊教諭は基本的にはサポートにまわり、個別練習時に個々の生徒に対して指導を行った。

授業開始後30分が経過して「判定試合」が始まる。試合は男女それぞれ2班の計4班に分かれて実施。審判は主審が「気」のカードを、副審2名がそれぞれ「剣」と「体」のカードを持つ。「気は気迫、剣は剣の動き、体は身体の動きをそれぞれが判定します」と西山氏が説明する。主審の合図で試合は始まり、試合後に主審は挙げられた3つのカードを基に、どちらが勝ったかを宣告して、蹲踞、納めで交代となる。全剣連普及委員会学校教育部会が提示する「気剣体判定試合」であった。

授業の最後に西山氏より「だいぶ剣道らしくなってきました。はじめの礼、終わりの礼、着座など一連の動作をしつかりとやること。ここに剣道の本質があります。そして有効打突で大事なものは

残心です。残心は次に備えること。それは日常生活でも活かれます。また、相手も攻めてくるなかで有効打突をとるのは難しい。しかしそれが心理戦です。剣道の難しさであり面白さでもあります。それを感じ取ってください」と授業の感想を述べた。

女子生徒に授業の感想を聞いてみると「武道の授業が剣道でよかったと思っています。ここ浦川原には剣道の先生がいるので正しい剣道を教えてくれます。柔道ではそうはいかないと思います」との返答が返ってきた。生徒の口から「正しい剣道」との言葉が出てきたことに驚かされた。



浦川原中学校では武道授業として、ゲーム的な要素を入れずに本格的な剣道を行ってきた(1年生の小手打ちの授業では、一部で段階的な指導がなされていた。しかし、全剣連は動機付けを含めた

段階的な指導法での授業を提示している。浦川原中での剣道授業は、西山氏がただ道場での指導法を学校に持ち込んだわけではなく、講習会での指導法を参考にして、10数時間で生徒に何を伝えられるかと熟慮した結果の現れである。つまり、ゲーム的な要素を含んだ展開法の有効性も理解した上で、あえて授業には盛り込まなかったということである。

取材時、1年生の胴打の指導では、「日本の刃物は包丁などすべて引いて切ります。一方、西洋は押し切りとなります。竹刀は、ほとんどが押し切りとなりますが、唯一、胴打は引き切りとなります。それをイメージしながら打ちましょう」との説明があった。この説明を聞くと、剣道を経験していない記者でも少し胴打を体験してみたくなる。西山氏の指導法は、全剣連の指導法を基本としながらも少しでも剣道本来の魅力を理解してもらうための細やかな工夫が施されている。そして特筆すべきは、その授業を生徒も受け入れ、その効果が現れていることである。

ある。取材時、男子生徒が判定試合で攻防の展開を楽しんでいる様子も見受けられた。生徒からは「西山先生から教えてもらえるから本場の剣道がわかる」などの声があるという。

最後に西山氏と小熊教諭から所感が述べられた。これからは浦川原中学校での剣道授業の発展を期待したい。

◎西山知太郎氏

「こうした取組を市や地域が支えていく仕組みは個人の事情が影響します。人材の確保が武道授業のネックだと思っています。授業では自分でもこのままでいいのだろうか」と迷いながらもやっている部分はあります。来年も行うのであれば、慣れてきて省略してしまう部分が出てきてしまうかが心配です」

◎小熊敬子浦川原中学校教諭

「西山先生の指導法を身近で見ることで、勉強になりました。今後もし生徒にはより良い授業を行っていきたいです」(本誌・長澤克成)